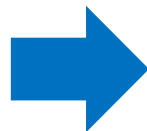


# 石教研の歴史と研究

## 共同研究のはじまり 昭和 30 年

- 「一人の百歩より百人の一步」を合言葉に
- 学校、教育委員会、組合など多元化された研究を一元化、共同化するために発足した
  - 現場研究の組織化と共通意識の確立を図りながら「共研」活動が続けられた



## 石教研の誕生 昭和 41 年

- 「石狩の子どもたちの幸せを願って」
- 研究所が公的機関に移行し、校長・教頭の組合離脱等により、全教職員による共同研究が困難に…
  - 子どもたちの幸せのために、管内全教職員で自主的な研究活動を求めて「石狩教育研究会（石教研）」が誕生

### 特色ある教育活動の 創造に向けて

教職員や学校が抱えている課題を管内全教職員で交流・研究し、教育課程の**自主編成**を進めます。

### 子どもがいる場での実践研究

**子どもたちの幸せ**を願い、書籍に書かれている理論研究以上に、子どもたちの実態に応じた実践を基盤とした研究を行っています。

### 子どもたちのための共同研究

石狩全体の子どもの成長のため、**全教職員が結集して共同研究**を進めていくことが重要です。私たちは「子どもたちのために研鑽しているのだ！」と胸を張って言える、そんな教職員になりましょう。

### 質の高い授業の創造

創意工夫をこらした授業実践を通して、**学びの質**を変えていくことが大切です。

### 子どもの成長が「充実感」に！

多忙化が叫ばれていますが、石教研は、その解消のため研究の一元化を進めてきました。常に工夫と改善を図りながら、**管内の子どものための研究**と位置づけた取組は、子どもの成長を見たときの「充実感」につながるはずです。

## 「新しい道」 所長 香取 正一

私たちは「共同研究」という道をつけました。“今後の現場研究は共同研究であるべきだ”と多くの人は言っていました。しかし真正面から、堂々と取り組んだのは石狩の先生方でありました。今、そのまともめを発行するにあたり、言い切れぬ感動をおぼえます。

石狩管内をあげて、切り開いたこの道は、もちろん本当に細く、ささやかな道です。でも、この道をたどった経験をもつ人達が他に誰があるでしょうか。私達だけが体験したのです。険しい道であっただけにこの実践の事実は、とても尊いことだと思います。

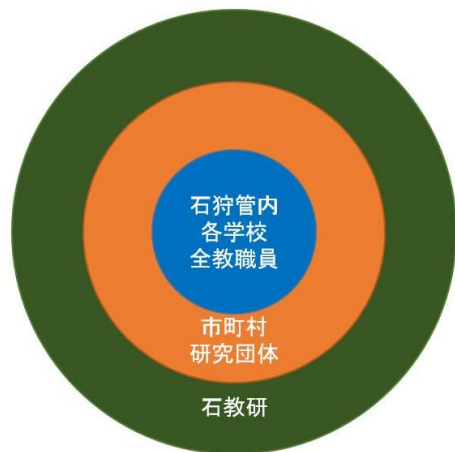
来年度もさらに、共同研究を推し進めることになると思いますが、この険しい道も年一年と改善されて歩み易い道になることを信じます。やがて、イシカリ以外の先生方も加わって、道は次第に広くなりましょう。今でこそ、細くて不完全な道ではありますが、やがて坦々たる大道になることでしょう。そうなることを、私は心から期待しています。

このまともめを通して、私達の実践の足跡を見つめ、子どもたちのシアワセを求めて、さらに前進を続けましょう。

(昭和 31 年創刊「石狩の教育第 1 集」 所長挨拶原文)

# 石狩管内教育研究会（石教研）とは

石教研は、「一人の百歩より百人の一步」を合言葉に、会員個々の現場実践を結集し、その成果を広く石狩管内各校に環流する管内唯一の研究団体です。



日常の授業実践が基盤

管内教育研究の一元化

自主的・共同的な研究

研究成果の積極的な環流

## 石教研活動 三本柱

### 専門領域の指導力向上（全員参加）

国語、算数(数学)など19の部会で現場実践を行い、一日日程で管内研究会を開催します。研究会当日は、研究授業や各自が持ち寄った研究実践レポートにもとづいて研究協議などを行います。各市町村研究団体にも同様の部会があり、管内と市町村が強く連携して研究をすすめています。

10月18日(金)開催



### 校内研究成果の管内発信（各校代表参加）

管内教育の向上を目的とし、毎年、研究校が指定されます。指定校は自校の研究主題に基づき、3年間課題解明にあたります。3年目には研究発表会を開催し、研究過程やその成果について管内全学校からの参加者を通して発信します。各市町村研究団体も同様の研究会があり、管内と市町村が強く連携して研究をすすめています。

当別町立とうべつ学園 11月1日(金)開催

### 今日的教育課題の解明（全員参加）

集団づくり、道徳教育、特別支援教育など、13の部会で現場実践を行い、午後半日日程で管内研究会を開催します。研究会当日は、部会員の実践をレポートとして持ち寄り、教育課題解明に向けて研究協議などを行います。

9月3日(火)開催



# 石教研

第59年次  
基本姿勢

## 「学びのサイクル」で実践力を磨き合う“協働”研究

～ 誰もが幸福を実感できる未来を創造していく石狩の子どものために ～

# 石教研の性格と役割

## 石狩管内全教職員が参加する唯一の研究団体

石教研は、全ての石狩管内教職員（約 2,300 人）によって組織されている、管内唯一の自主的な研究団体です。

## 現場実践と“協働”研究

会員一人一人の自主性と課題意識を基盤として、現場実践を通して研修・研究活動を行い、個々の教育的力量を高めています。

## 石教研の研究＝石狩の教育

管内の教育関係機関が連携し、管内全教職員で知恵を出し合い、「石狩の子どもたちのために、子どもたちをどう育てるか。」を研究する石教研は、石狩の教育そのものといえます。

## **基本目標** 主体的・創造的で人間性豊かな子どもを育てる教育の確立

- ▶ 石狩の子どもたちのために教育に関する専門性を高めよう
- ▶ 日常実践を基盤とした自主的・共同的な研究をすすめよう
- ▶ 教育関係機関と連携し、より確かな研究体制を築こう

## **研究の信念**

すべては 石狩の子どもたちのために

一人の百歩より、百人の一步

## 研究は三本柱を中心に

研究は、専門部会研究（専門領域の指導力向上）、課題部会研究（今日的教育課題の解明）、学校課題研究（校内研究成果の管内発信）の3本柱を中心にすすめます。

市町村の研究団体と連携を図りながら、全ての研究の成果を管内で一元化し、全ての学校へ広く環流しています。





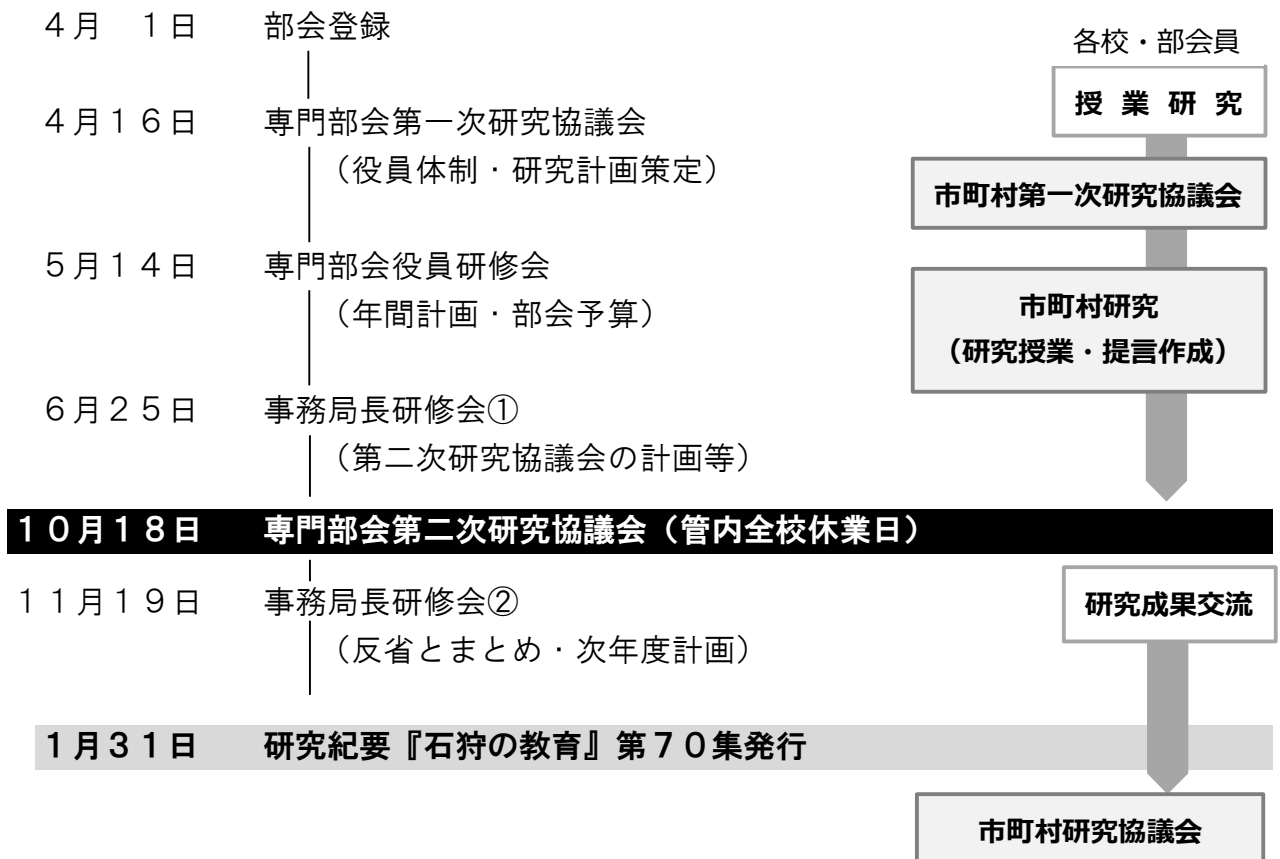
# 石教研活動の流れ

## 専門部会研究

取り組むべき視点を明確にした日常実践のさらなる充実

国語、算数（数学）など19の部会で現場実践を行い、10月18日に一日日程で管内研究会を開催します。研究会当日は、研究授業や各自が持ち寄った研究実践レポートに基づいて研究協議を行います。各市町村研究団体にも同様の部会があり、管内と市町村が強く連携して研究をすすめています。

### 2年継続研究の2年次



部会事務局（部長、副部長、事務局長、事務局次長、研究員、教育課程研究委員）を構成し、石教研事務局ならびに各市町村研究団体との連絡調整を図りながら主体的に活動します。

### 部会構成（19部会）

- |         |          |          |        |     |
|---------|----------|----------|--------|-----|
| ①国語（小）  | ②国語（中）   | ③社会（小）   | ④社会（中） | ⑤算数 |
| ⑥数学     | ⑦理科（小）   | ⑧理科（中）   | ⑨生活科   | ⑩音楽 |
| ⑪図工・美術  | ⑫保健体育（小） | ⑬保健体育（中） | ⑭技術・家庭 | ⑮英語 |
| ⑯障がい児教育 | ⑰養護教諭    | ⑱栄養教諭    | ⑲事務職員  |     |

### 主な事業

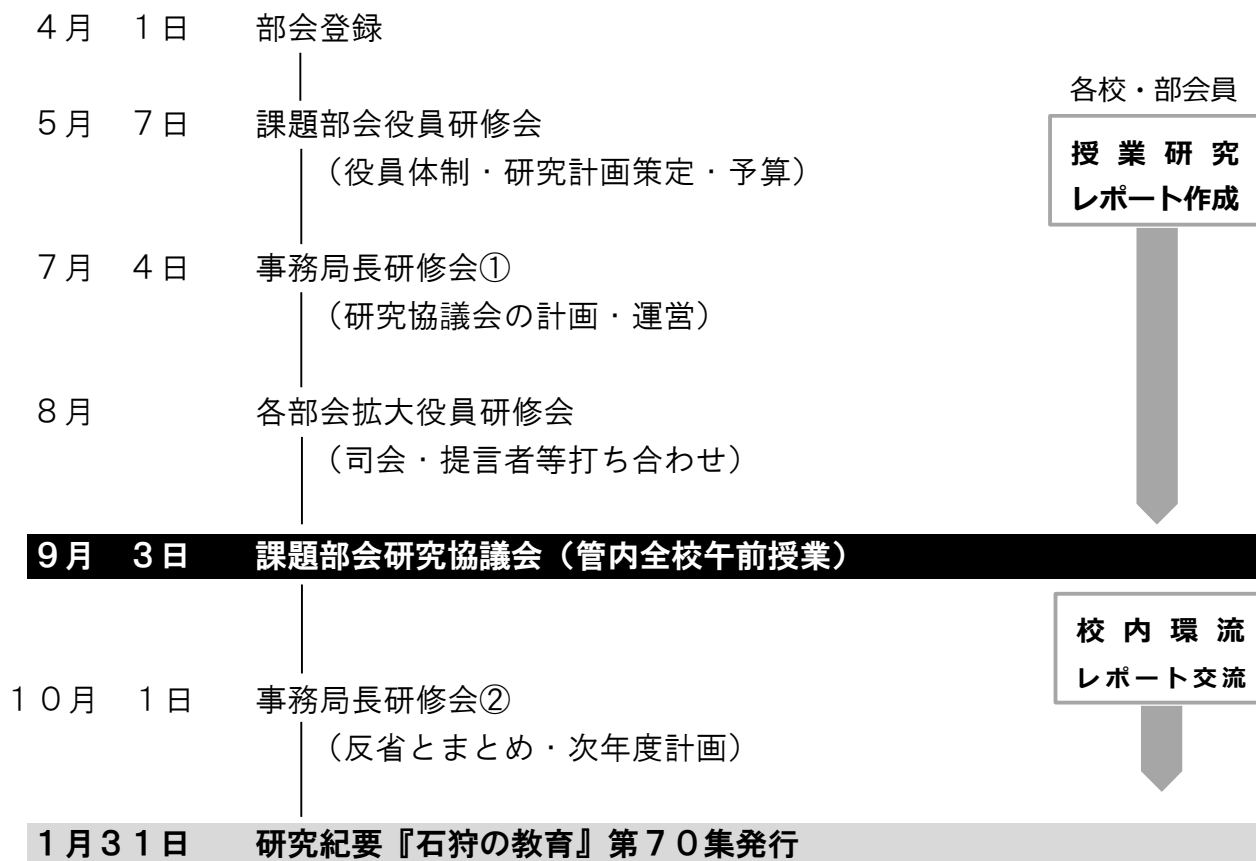
- |                |             |                |
|----------------|-------------|----------------|
| 研究協議会の開催       | 実技・理論研修会の開催 | 教育課程の研究        |
| 実践資料集、指導資料集の作成 |             | 研究紀要『石狩の教育』の作成 |

# 課題部会研究

## 多岐にわたる今日的な教育課題の解明

集団づくり、道徳教育、特別支援教育など、13の部会で現場実践を行い、9月3日に午後半日日程で管内研究会を開催します。研究会当日は、部会員の実践をレポートとして持ち寄り、教育課題解明に向けて研究協議を行います。

### 単年度研究



部会事務局（部長、副部長、事務局長、事務局次長、事務局員、研究員、協力員）を構成し、石教研事務局ならびに各学校研究責任者との連絡調整を図りながら主体的に活動します。

### 部会構成（13部会）

- |         |       |           |       |        |
|---------|-------|-----------|-------|--------|
| ①集団づくり  | ②生き方  | ③道徳       | ④教育課程 | ⑤情報教育  |
| ⑥国際理解教育 | ⑦環境教育 | ⑧人権・平和    | ⑨文化活動 | ⑩安全・健康 |
| ⑪特別支援教育 | ⑫生徒指導 | ⑬へき地・複式教育 |       |        |

### 主な事業

- 研究協議会の開催      実技・理論研修会の開催      研究紀要『石狩の教育』の作成

# 学校課題研究

## 主体的に学校課題を解明する校内研究の充実

管内教育の向上を目的とし、毎年、研究校が指定されます。指定校は自校の研究主題に基づき、3年間課題解明にあたります。3年目には研究発表会を開催し、研究過程やその成果について管内全学校からの参加者を通して発信し、交流を図ります。

令和6年度 研究発表校 1校（3年研究）

令和6年度発表校

■当別町立とうべつ学園 11月1日（金）

主体的に深く考える児童生徒の育成

～義務教育9年間を見通した授業の工夫～



（令和5年度発表校 恵庭市立若草小学校 江別市立中央中学校）

# 教育講演会

## 視野を広げ、教職員としての資質を高める

昨年度より隔年開催となったため、今年度は講演会を実施せず、企画のみ行います。